

# 會務報告

第 53 卷 第 5 號 昭和 12 年 5 月

## 役員會記事

### 第 3 回理事會 (12. 3. 22)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，宮本，金子，關各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任

#### 報 告

#### 1. 關西支部役員會議事報告

#### 議 事

1. 土木學會財政調查委員會委員に萩原俊一君を追加依頼することとせり。
2. 土木學會企畫委員會委員追加の件は次回理事會に於て協議することとせり。
3. 土木學會用語調査常置委員會委員に板倉誠君を追加依頼することとせり。
4. 請負工事標準契約書調査委員會委員に宮長平作君を追加依頼することとせり。
5. 土木技術者相互規約調査委員會委員(幹事)に村上保則君を追加依頼することとせり。
6. 杭の支持力公式調査委員會委員に長谷川章平君，安宅勝君，黒田靜夫君を追加依頼することとせり。
7. 4 月中の役員會及委員會其他會合日を別紙(省略)の通りとせり。

#### 8. 入退會の件

相澤房太郎君外 14 名を會員に，阿部雅雄君外 23 名を准員に，生田久也君外 15 名を學生員に入會を承認し，准員山岡包郎君を會員に，學生員篠光久君外 1 名を准員に転格を承認せり。

### 第 4 回理事會 (昭 12. 4. 5)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，宮本，金子，關，沼田，樫木，後藤各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任

#### 議 事

1. 土木學會文化映畫委員會委員に藤森謙一君を追加依頼することとせり。
2. 土木學會防空施設研究委員會委員及幹事に次の諸君を追加依頼することとせり。  
委員 岩崎富久君 瀧尾達也君  
幹事 稻葉權兵衛君 松井達夫君
3. 土木學會財政調查委員會委員に佐土原勲君，堀信一君，尾崎義一君を追加依頼することとせり。

4. 土木士法案調査委員會委員に田中豊君，宮長平作君を追加依頼することとせり。

5. 土木學會企畫委員會委員に次の諸君を追加依頼することとせり。

五十嵐醇三君，石田武雄君，糸川一郎君，太田尾廣治君，瀧山養君，野坂孝忠君

6. 伊能忠敬翁顕彰會より申出の同翁遺物保存館建設寄附金募集に關し次の如く申合せたり。

1. 會員及准員に對し學會の名を以て印刷物に依り勧誘すること。
2. 寄附金額は 1 円以上とすること。
3. 印刷費，郵税，振替料金等は顯彰會の負擔とすること。

7. 關西支部提案の特別員募集に依る補助額は關西支部と協議することに申合せり。

8. 東北帝國大學發刊工学報告と土木學會誌を交換することとせり。

9. 編輯囑託五十嵐醇三君辭任に就き後任として糸川一郎君を依頼することとせり。

### 第 2 回常議員會 (昭 12. 3. 22)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，阿曾沼，金子，河西，河口，菊池，關，高橋，中村，宮本，森田，小澤各常議員，岡野，中川，那波，名井，眞田各前會長，柴原書記長，小野寺庶務主任

#### 報 告

1. 第 1 回理事會，報告自第 1 項至第 3 項，議事自第 1 項至第 3 項，第 8, 9 項及第 11, 12 項の事項を報告せり。

2. 第 2 回理事會，報告第 1, 2 項，議事自第 1 項至第 4 項及第 6, 7 項の事項を報告せり。

3. 第 3 回理事會，議事第 1 項及自第 3 項至第 5 項の事項を報告せり。

4. 第 26 回視察旅行を關東水力佐久發電所，群馬水電原町發電所視察及吾妻川溪谷(關東耶馬溪)探勝，草津 1 泊，東信田代貯水池，碓氷國道，九十九川災害復舊工事等の視察を 5 月 8 日，9 日開催することとせり。

#### 議 事

1. 大阪市技師堀威夫君並に内務技師山下輝夫君の講演を 5 月下旬開催することとし演題及期日は理事會

一任とせり。

2. 伊能忠敬翁功績遺物保存館建設寄附金募集に關しては伊能忠敬翁功績顯彰會よりの依頼ありたる後理事會及常議員會に諮ることとす。

### 總務部記事

#### 第6回土木學會文化映畫委員會 (昭12.3.23)

出席者：金森委員長，片平，澤，廣田，草間，藤森各委員，小野寺庶務主任

#### 議事

1. 對外宣言書を正式議決し，發表の時期は委員長に一任す。
2. ニュース調査表書入事項を決定しその形式を草間，藤森兩委員に依嘱せり。
3. 他協會の宣傳映畫製作に對する本委員會の方針を決定せり。
4. ニュース調査表は宣言書發表と同時に各關係者に送附する事とせり。
5. 次回委員會に於て，本委員會第1回作品“地球藝術”(假名)の題名及シナリオ構成の問題を持ち寄る事を決議せり。
6. 藤森兼一君を委員に追加依嘱することとせり。

#### 第1回オリンピック大會土木施設調査委員會

(昭12.3.24)

出席者：大河戸會長，岡野委員長，藤井，黒田，井上，衣斐，高橋，岡田(古川委員代理)川口(沖靈委員代理)各委員，磯谷幹事，柴原書記長，小野寺庶務主任

1. 柴原書記長よりオリンピック大會土木施設調査委員會設立に至りたる経緯の説明あり。
2. 藤井委員よりオリンピック招致委員會に於て準備したる諸案件に就き説明あり。
3. 参考としてベルリン・オリンピック大會會場に關する説明並に内務省都市計畫課に於て準備せる3案を磯谷幹事より，鉄道輸送關係に就き岡田委員より，ヨットハーバーに就き黒田委員より，東京市土木當局のオリンピック大會に關連ある施設に就ては腹案を衣斐委員より，夫々説明あり，ポートコースに就ては次回に於て金森委員より詳細聴取することとせり。

#### 決定事項

1. 本委員會はオリンピック大會に關する施設の土木技術に關する事項を専ら調査研究し土木學會案の作製を行ふ。但しオリンピック大會に關係ある他の凡

ゆる施設に關しても一応考究することとす。

2. オリンピック會場の正式決定を待ち2,3回委員會を開催し，意見の交換を行ひ，土木學會原案を作製し，之を基礎として更に審議す。

#### 第1回土木學會防空施設研究委員會 (12.3.25)

出席者：眞田委員長，樫木，宮本，關各理事，田中，山口，藏重，菊池，櫻井，高橋(三郎)，高橋(甚也)，河西，内田，鎌田，中村各委員，町田幹事，柴原書記長，小野寺庶務主任

1. 宮本理事より土木學會防空施設委員會成立までの経緯説明ありたる後今後の研究方針の協議に入る。
2. 参考のため内務省都市計畫に於て研究せる都市防空施設計畫案に就て説明ありたり。

#### 決定事項

1. 東部防衛司令部に於て定められたる研究題目の内土木學會の關係せるは

- |    |   |
|----|---|
| 第2 | $\left\{ \begin{array}{l} \text{地上,地下建築物,工作物(既設並に目下建造しつゝあるもの)} \\ \text{1. 避難,防毒及照明施設} \end{array} \right.$ |
| 第3 |   |

以上2議題なるも今後の研究は必ずしも之に限定せず，次の3項目に分科研究を進めること，

1. 避難，防毒，照明施設
  2. 防火，消防，給水施設
  3. 構造物の偽装，遮蔽，補強
2. 各分科に幹事1名宛を置くこと
    1. 松井達夫君(追加)
    2. 町田保君
    3. 稻葉權兵衛君(追加)
  3. 各幹事は次回までに研究議題の原案を作製持寄ること。
  4. 次回4月12日(月)とす。

尙當分の中各分科會及總會は毎月1回の割にて開催すること。

5. 岩崎富久君，瀧尾達也君を委員に追加すること。稻葉權兵衛君，松井達夫君を幹事に追加すること。

#### 第6回土木技術者相互規約調査委員會

(昭12.3.29)

出席者：川口，中野，藏重各委員，宮本總務部長，小野寺庶務主任

第5回委員會に於て決定したる土木技術者の信條3則に基き藏重幹事作成の別紙(省略)細則案に就き

逐條審議をなせり。

### 第 1 回土木學會企畫委員會 (昭 12. 3. 31)

出席者：米元委員長，阿曾沼，稻葉，今井，小澤，小宅，奥田，河西，佐野，須之内，徳善，服部，町田，松井，松田，山岡各委員，大河戸會長，宮本，後藤兩理事，太田尾廣治君，柴原書記長，小野寺庶務主任

1. 大河戸會長，本委員會設置に就き説明，宮本理事より希望を述べ。

2. 米元委員長，委員長に就任の挨拶あり，次で本委員會の仕事の幹事が中心となり進むこととして幹事に大正年代 2 人昭和年代 3 人を選ぶこととして如何と語り。

3. 稻葉，徳善，町田，河西，小澤，今井，須之内各委員より意見あり結果次の諸君に幹事を依頼することとせり。

徳善善光君，今井四郎君，松井達夫君，山岡包郎君

4. 本委員會は毎月 1 回開催することを原則とし緊急事項ありたる場合は臨時に開催すること。

5. 太田尾廣治君より大学，工業学校の内容を再検討し科目の制定を増加すること，工業学校教科書の作成等を議題として審議しては如何との提案あり考慮することとす。

### 晩 餐 會 (昭 12. 3. 22)

午後 6 時より退任役員諸君を丸ノ内會館に招待し，慰勞の晩餐會を開催せり，出席者 26 名大河戸會長より役員各位の絶大なる御盡力に對し感謝の詞あり，次で退任役員を代表して宮長平作君の挨拶ありて盛會裡に午後 8 時散會せり。

## 經 理 部 記 事

### 第 3 回土木學會財政調査委員會 (昭 12. 3. 26)

出席者：前川委員長，大竹委員，金子經理部長，柴原書記長，朝倉會計主任

### 報 告

1. 本委員會の提案に係る土木事業計畫審査委員會は先般常議員會に於て設置せり。該委員會要項別紙の通りとす。

2. 本委員會の提案に係る特別員入會に關しては常議員會に於て特別員推薦方本委員會に依頼ありたり。

3. 本委員會提案に係る關西支部に對し特別員會費半額補助の件は常議員會に於て目下考慮中なり。

### 議 事

1. 特別員を左の業別に分類したり。

(イ) 電氣事業 (ロ) 軌道關係 (ハ) 市役所  
(ニ) 請負業者 (ホ) 製作，製造會社

2. 次回には各委員に於て以上による候補者を可成多數持寄ることとす。

3. 關西支部申出の半額補助の件に關する實現方促進を理事會に提案すること。

4. 下記諸君を本委員會委員に追加すること。

佐土原勲君 堀 信一君 尾崎義一君

5. 次回開催を 4 月 27 日 (火) とし各委員の出席を特に願ふこと。

## 編 輯 部 記 事

### 第 2 回會誌編輯委員會 (昭 12. 4. 6)

出席者：關委員長，伊藤，大岡，大川，岡崎，菊池，廣瀬，安宅，稻葉各委員，今井少佐，野坂，太田尾兩幹事，五十嵐，糸川，中川各編輯囑託

1. 協議に先立ち，關委員長より五十嵐編輯囑託退任に付き後任として糸川一郎君を依頼する旨挨拶ありたり。

2. 第 23 卷第 4 號所載工事寫眞，彙報，時報，抄録に對する謝禮を決定す。

3. 本月份原稿の審査及新刊紹介の各委員分擔を決定せり。

4. 登載原稿を次の如く決定せり。

### 第 23 卷第 5 號追加

工事寫眞：工事中の木曾川橋，奈良縣丹波市町立体交叉 (鉄道と道路)

論說報告：鋪裝コンクリートの力学的性質に就て (會，工博，藤井眞透) メナーゼ鉸の圧縮試験に就て (會，内山實)，

討 議：朝鮮慶尙南道赤布橋工事報告 (會，眞鍋簡好)，同上 (著，准，角田孝志) 変形ローゼ楯に就て (會，横道英雄)，同上 (著，會，中島 武)

彙報：南淺川橋架設工事概要 (會，尾崎義一)，鉄筋コンクリート橋承の實例報告 (會，大島六七男，准，岡本舜三)

時報：木曾川橋架換工事，都市計畫關係決定事項，新建設線路，新國道，富士電力富士川大間發電所發電計畫概要，揖斐川電氣揖斐川筋西平發電所發電計畫概要

抄録：Cuxhaven 港に於ける蟲害(比田正), 潜水工法に於ける搬出作業(森茂), 6 径間連続の溶接橋(牧野茂) シャーバー博士溶接に就て語る(河合宏美) 自転車道の築造(谷藤正三) Malmö 工業港の新岸壁(國分正胤) 鉄筋コンクリート暗渠(二松慶彦)

會員の頁：隨感(會, 緒形重吉)

新刊紹介：都市鉄道工学

第 23 卷第 6 號登載

工事寫眞：豊平川藻岩發電所工事(會, 濱田重良)

論説報告：滿洲國大洋河橋工事報告(准, 川崎三則)

彙報：阪神上水道計畫(會, 村山喜一郎) 豊平川藻岩發電所工事概要(會, 濱田重良)

抄録：コンクリート鋪裝板の応力(谷藤正三) 地表面上降雨流出量の決定(嵯峨山富士男) 振動を伴ふ機械の基礎(同上) 可変応力を受ける鋼構造物の疲の法則と安全率(藤田龜太郎) 獨逸アルペン道路に架せられた斜拱橋(星埜和) St. Louis の街路構造(長瀬新) 河川の感潮部に於ける實測せる流速より平均潮流に對する平均流速の計算法(横田周平)

5. 抄録は對する謝禮標準を多少増額する事とす。

6. 印刷費暴騰の爲會誌紙質変更の件に關しては委員會としては從來通りの紙質を希望するも經費の増額を要するを以て委員長より理事會に諮る事とせり。

### 調 査 部 記 事

第 4 回用語調査常置委員會 (昭 12. 3. 10)

出席者：嶋野, 福島, 小宅, 岡部(代理稻穂) 菊池, 野口(代理島山) 各委員, 糸川幹事, 五十嵐編輯囑託

#### 1. 協議事項

從來の改訂方針を更に検討し, 英和工学辭典の實際的編輯方法を考慮せる之れが方針を確定して委員會の開催を減すべきことに就き協議す。

#### 2. 決定事項

(イ) 前々回より使用せる改訂用カードは, 之を其の儘辭典編輯用に使用せざることとす。

(ロ) 辭典編輯に關しては別に原稿を作製する必要あるを以て, 前記カードは原稿整理其の他に使用することとし, 従て其の記入法も次の如く変更す。

(ハ) 譯語の説明として付すべき註はカードの新しい語欄に記入し, 下の空欄は備考欄とす。

(ニ) 譯語が 2 語以上より成り, 之を重複掲載せ

んとする場合には兩語の下に under line を附し, カードを別々に作る必要なし。

(ホ) 用語の出所を示す(土), (資), (工)等の語は省略す。

(ヘ) 用語(譯語)の追加, 削除をなす場合には辭典に於て掲載すべき全語を記入することは前同通りとす。

(ト) 龜田委員は本年中歐米各國に出張中に就き, 後任委員に關し協議す。

(チ) 次回は「C」の部とし 4 月 15 日迄に主査に提出のこととす。

(リ) 常置委員會は, 原則としては必要に応じて開催するものとし, 當分の中は用語の改訂, 編輯に關する疑義を協議するため毎月 1 回の割とす。

第 3 回杭の支持力公式調査委員會 (昭 12. 3. 16)

出席者：谷口委員長, 綾, 伊集院, 尾崎, 片平, 金森, 小出, 坂本, 鈴木, 當樞, 當山, 藤森, 山口, 山内各委員, 小野寺庶務主任

1. 委員會を 3 部に分け第 1 部は理論に屬する事項, 第 2 部は實際に屬する事項, 第 3 部は 1 部 2 部に共通する事項とし各委員の分擔を定めたり。

2. 委員會は原則として毎月 1 回開催し, 各部小委員會は隨時開催することとせり。

3. 委員山田尙平君は任地遠方となりたる爲代りに黒田靜夫君を, 又新に長谷川章平, 安宅勝兩君を委員に依頼することとせり。

4. 實驗資料蒐集の爲各所に質問すべき事項の案は藤森委員の許に於て集め次回迄にまとめることとせり。

5. 次回を 4 月 2 日(金)開催することとせり。

第 4 回 杭の支持力公式調査委員會 (昭 12. 4. 2)

出席者：谷口委員長, 尾崎(代理糸川) 片平, 金森, 坂本, 當山, 德善, 藤森, 松村, 最上, 山内, 山口, 黒田, 長谷川, 安宅各委員, 五十嵐幹事

1. 外國雜誌中杭の支持力に關する記事の表題及その頁數を調査することとし下記の如く委員の分擔を定めたり。

2. 試験杭調査表に就き審議せり(藤森幹事整理)

### 雜 誌 分 擔

當山委員 { Engineering News-Record  
Civil Engineering

- 最上委員 { Proceeding of American Soc. of Civil Eng.  
Concrete & Construction Eng.
- 松村委員 { Beton und Eisen  
Bautechnik
- 片平委員 { Bauingenieur  
Le Gènie Civil
- 山内委員 { Schweizerische Bauzeitung  
Journal of the western society of Engineers
- 石田委員 { Canadian engineer  
Zentralblatt der Bauverwaltung
- 梅津委員 { Institute of civil Engineer  
Engineering

第 10 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 12. 4. 7)

出席者: 田中委員長, 瀧尾, 尾崎, 富樫, 奥田各委員, 友永, 齋藤兩幹事, 糸川編輯囑託

協議事項

1. 橋桁の撓度に對して種々の意見の交換あり, 一般の場合には 1/1000 を限度とするも撓度の爲に特に断面の増加を必要とする場合には 1/600 まで許し得る事に大体意見一致す。
2. 許容応力につき審議あり, 上路鋼桁及 existing bridge の床組に對しては許容応力を 1~2 割増し得る事に意見一致せるも, その決定値を得ず。
3. 長柱公式としては  $0 \leq \frac{l}{r} \leq 40$  に於ては安全率を 2 即ち true elastic limit  $2000 \text{ kg/cm}^2$  の  $\frac{1}{2}$  なる  $1000 \text{ kg/cm}^2$  を以て許容軸圧応力とすること,  $100 \leq \frac{l}{r}$  に於ては安全率を一様に 3.5 とし, その曲線は Euler 公式に準據すること,  $40 \leq \frac{l}{r} \leq 100$  に於ては大体 Rankine 曲線により連結することに決す。
4. 衝撃公式に於ては公式は現案を保持し式中  $L$  の取り方を従來の荷重長とせず simple girder に對し span length を arch span に對し  $1/2$  span length をとる事に意見一致す。
5. Roller の直径の決定には作用反力に對し直線的比例公式の現示方書を保持するも, その比例恒數の正否を各種公式と比較して見る事とす。
6. 大体重要事項の審議を終りたるを以て示方書成案の構成を大体獨逸示方書の形式にし細則を米國式に成案を作成することを友永幹事に委託す。

法 政 部 記 事

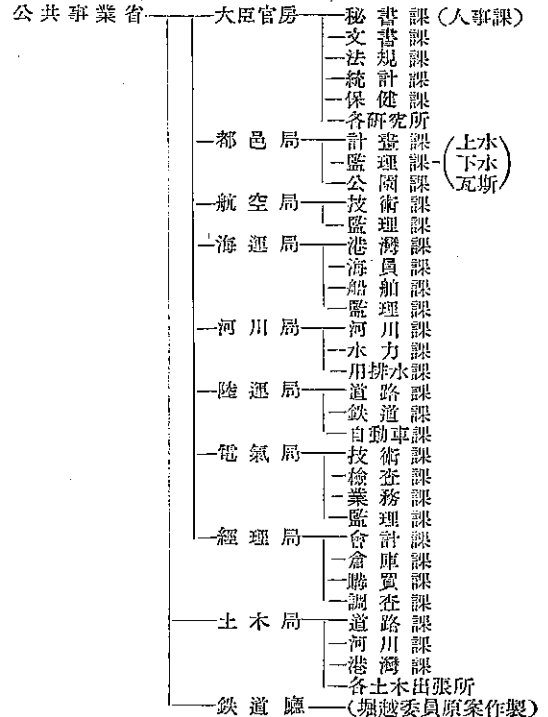
第 10 回行政機構改正調査委員會 (昭 12. 3. 15)

出席者: 八田委員長, 辰馬副會長, 宮本總務部長, 池邊, 高橋(嘉), 堀越, 宮島, 山崎各委員, 奥田幹事, 高西關西支部長, 五十嵐編輯囑託, 小野寺庶務主任

議事要項

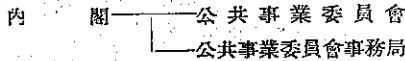
1. 奥田幹事より前回議事の報告をなし, 今回議事原案に就き説明す。
2. 八田委員長より前回迄の経過及審議方針に就き説明あり。理想案としての公共事業省案, 實際案としての公共事業委員會案を審議の上, 決議として理事に提出し, 土木學會より關係方面に建議したき旨説明あり。
3. 八田委員長より外部狀勢に就きて説明あり。即ち交通省の如き提案は解消し, 各省は長官之を總理し, 別に國務大臣ありて交通, 産業その他の部門を受持ち, 専ら國策を決定する。その立案の機關としては總務廳を設ける。以上の如き考へあり。
4. 宮本總務部長より總務, 技術に分つが如き案は不可との意見あり, 各委員賛成す。
5. 理想案を一応審議する事の可否に就き議論ありたるも, 結局幹事提出の原案に就き審議を進め, 次の定く決定したり。次回再び審議をなし之を委員會の決議となす事に決したり。鉄道廳に就きては堀越委員原

第一案 公共事業省案



案を作製し、之を次回に於て審議する事とせり。

第二案 公共事業委員會案



公共事業委員會は内閣直屬とし、公共事業に關する各省の提案を審議するものとし、その決議は強制力あるものとする。

委員會の會長は總理大臣とし委員は各省代表者、各部門權威者よりなる(第9回決議)。

公共事業委員會には別に事務局を置く。

6. 次回は3月30日(火)に開催する事とす。

第11回行政機構改正調査委員會(昭12.3.30)

出席者: 八田委員長, 樫木法制部長, 佐藤, 宮島, 小野各委員, 奥田幹事, 小野寺庶務主任

議事要項

1. 奥田幹事より別紙原案(第10回決議及鉄道廳案)に就き説明す。

2. 今回迄の委員會に依りて發表され論議された各委員の意見をまとめ委員會の決議となし理事に提出する事とする。

決議は外部の條件が一定しない以上數箇あり得るものであり、最後に決議された第1案, 第2案(別紙)はその兩極端と考へられ、その中間とも言ふべき案も考へ得らる。依つて経過及趣旨を説明として附加し中間報告となす。

3. 以上の中間報告は樫木法制部長, 宮島委員, 加藤, 村上, 奥田各幹事の間にて起草し, 4月下旬迄に取りまとめ委員會に諮り決議となす。

第4回土木士法案調査委員會(昭12.3.30)

出席者: 樫島, 野原各委員, 田中豊君, 樫木部長, 宮長前部長, 柴原書記長, 小野寺庶務主任

建築士法案の議會提出第1讀會通過委員付託等を報告す。

1. 土木士法案を起草することとす。

2. 田中君を特に委員に追加すること, 並に法案起草に關し委員追加を樫木部長に於て考慮することとす。

3. 土木士法案と密接なる關係を有する土木工作物に關する法律案の制定を必要とす, 依てその立案起草に關しては特に委員會の設置を要すべく樫木部長に於て之が實行方法を考慮することとす。

東亞部記事

第2回東亞調査特別委員會(昭12.4.1)

出席者: 山口特別委員長, 内田, 樫木, 山中各特別委員, 後藤東亞部長, 宮本總務部長, 中村幹事, 柴原書記長, 小野寺庶務主任

山口委員長の作成せる文通大学々則案に就き逐條審議をなし別紙の通り可決, 趣意書を附し全体委員會に報告することとす。

趣意書の起草は後藤部長, 山中委員, 中村幹事に於て作成することとする。

日本工學會記事

○昭和12年3月26日, 日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり, 次で社員總會に提出すべき事項に關する件及日本工學會定款及規則中一部改正の件を決議せり。

○昭和12年3月26日, 日本工業俱樂部に於て日本工學會社員總會を開催し, 昭和11年度日本工學會事務報告, 同收支決算及貸借對照表並に特別會計收支決算報告, 同事業報告, 昭和12年度收支豫算の件を報告し孰れも異議なく承認せり。

その他記事

○昭和12年3月30日土木學會誌第23卷第4號を發行成規の手續を了し3月30日全會員に配布せり。

入會及転格會員

會員(入會)

相澤房太郎君	鐵道技術委員會	田 野 清 男 君	大阪市水道部下水課	保野武三郎君	株式會社大林組
王 達 君	滿洲錦州會公署土木科	棚 橋 諒 君	京都市大工學部建築教室	緒方惟明君	嵯峨電力株式會社
齋 藤 雄 君	株式會社大林組	津下修一郎君	岡山縣福渡土木出張所	鎌 田 銓 一 君	陸軍省兵務局防備課
島 田 八 郎 君	内務省土木試驗所	野 仲 勝 喜 君	滿洲國實業部	川 上 英 夫 君	滿洲奉天會公署土木課工務科
田 中 俊 德 君	都市計畫奉天地方委員會	松 田 憲 二 君	京都市廳土木部監理課	董 蔭 青 君	滿洲國民政部第一工務處

准 員 (入 會)

阿部雅雄君 茨城県藤井地課  
 甘中巖君 内務省円山川改修事務所  
 綾野英男君 東信電氣株式会社  
 石田貞一君 鉄道省工務局改良課  
 小川祐四郎君 満洲國土木局國門建設處  
 河端富雄君 滿鉄牡丹江鐵路局  
 久網正典君  
 關野明君 満洲國土木局國門建設處

田中二郎君 東信電氣株式会社  
 千葉敏君 電気化学工業株式会社  
 内藤利貞君 茨城県土木課  
 内藤録郎君 島根縣土木課  
 中村唯郎君 徳島高等工業學校土木教室  
 西岡弘道君 株式会社問組  
 半田博君 満洲國土木局國門建設處  
 東居行雄君 満洲國土木局第2工務處  
 郡邑科

福島彌六君 内務省土木試驗所  
 宮部正治君 長谷川工務所  
 守屋仙重君 満洲國土木局第一工務處  
 第2道路科  
 森敏夫君 朝鮮總督府鐵道局新義州  
 工事區  
 吉田進一君 京都市役所水道局下水課  
 酒井立夫君 東京鐵道局工務部改良課  
 田中貢君 満洲龍江省公署民政廳土  
 木科  
 平井敦君 大阪市役所土木部河川橋  
 梁課

学 生 員 (入 會)

生田久也君 東京帝大  
 奥山俊君 熊本高工  
 小池健一君 東京高工  
 越賀正隆君 京都帝大  
 鈴木立夫君 “  
 千葉寛君 “

中島文夫君 名古屋高工夜学部  
 中條巧君 日大高工  
 原田有胤君 仙臺高工  
 増田重臣君 京都帝大  
 松本豊君 仙臺高工  
 丸山二郎君 東京帝大

森芳次郎君 日大高工  
 渡部正己君 仙臺高工  
 廣瀬可一君 東京帝大  
 福島廣一君 “

會 員 (転 格)

山岡包郎君 逓信省電氣局水力課

准 員 (転 格)

篠光久君 京都府廳土木部道路課

根來幸次郎君 札幌鐵道局工務部保線課

土 木 学 會 々 員 數

(昭和 12. 3. 22. 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
2 849	2 771	629	3	21	6 273

會 員 高石庫治君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 徳力紀一郎君、喜多山健兒君、北村芳美君、布田初志君  
 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

# 會 告

時は新緑の好季!!

春のエクスカーション!!!

第26回視察旅行を5月8日(土)9日(日)に涉り下記プログラムによつて(晴雨に拘らず)開催致します、この絶好の機会を逸せず奮て多数の御参加を切望致します。

集合場所及日時： 澁川驛前(上越線)へ5月8日「前班」午後2時10分、「後班」午後3時30分までに集合。

## 行 程

第1日： 8日

前 班： 澁川驛前よりバスにて關東水力佐久發電所を視察し澁川驛前にて後班と合す。

後 班： 澁川驛前にて前班と合す。

全 班： 午後3時40分澁川驛前よりバスに分乗し吾妻川沿岸をドライブ群馬水電原町發電所工事を視察、關東耶馬溪の稱ある吾妻溪谷を探勝、同7時30分草津温泉着一井旅館その他へ宿泊。

大懇親會： 午後8時より草津一流席亭に於て懇親の宴を開き草津情緒を満喫。

第2日： 9日午前9時20分一井旅館前廣場に集合バスに分乗し東信電氣田代貯水池を視察、正午鬼押出(淺間山麓)着鬼押出熔岩の景を探勝、晝食少憩の後、輕井澤を経て碓氷國道及九十九川災害復舊工事を視察、名所觀音山に詣で午後4時—5時高崎驛着解散。

會 費： 金5円 集合より解散まで一切の費用(汽車賃自辨)當日草津に於て頂きます。

參加申込： 5月5日までに御申込下さい。

○汽車時刻は次の時間を御利用下さると便利です。

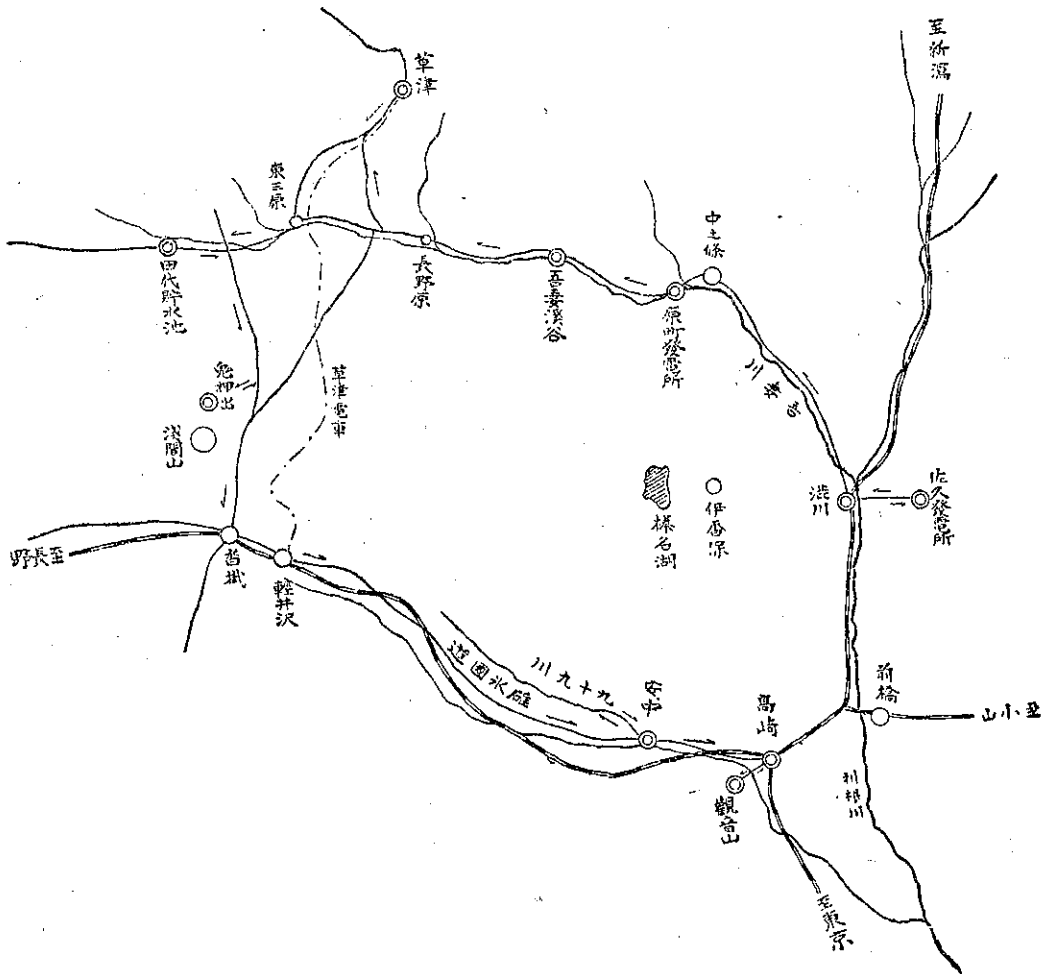
(往) 上野驛發午前11時35分・澁川驛著午後2時08分  
同 發午後0時30分・澁川驛著午後3時29分



小山驛發午後 0 時 10 分・澁川驛著午後 3 時 29 分  
 長岡驛發午前 9 時 35 分・澁川驛著午後 2 時 09 分  
 長野驛發午前 9 時 40 分・澁川驛著午後 2 時 08 分  
 (復) 高崎驛發 東京方面午後 4 時 31 分と 5 時 15 分  
           長野方面午後 5 時 34 分  
           長岡方面午後 4 時 20 分と 6 時 44 分  
           小山方面午後 4 時 26 分と 5 時 40 分

## 土 木 学 會

第 26 回 視 察 旅 行 略 図



# 會 告

## 講 演 會 開 催 通 知

下記の通り講演會を開催致します、御誘ひ合せ多數の御來聽を希望致します。

日 時： 昭和 12 年 5 月 23 日 (金曜日) 午後 5 時

會 場： 帝國鐵道協會 (麴町區丸ノ内 3 の 4)

演題並に講演者：

- |              |       |          |
|--------------|-------|----------|
| I. 歐米土木專業視察談 | 内務技師  | 山 下 輝 夫君 |
| II. 歐米の橋梁を見て | 大阪市技師 | 堀 威 夫君   |

以 上

○講演會終了後午後 7 時より有志晚餐會を催します、御繰合せ御出席を希望致します  
會費 2 円 (當日御持參のこと)。

○御來會の有無 (講演會並に晚餐會) を 5 月 25 日までに御申出下さい。

### 土 木 学 會

電話 丸ノ内 (23) 3945 番

# 會 告

## 土 木 工 学 用 語 集

### 内 容

本文約 500 頁

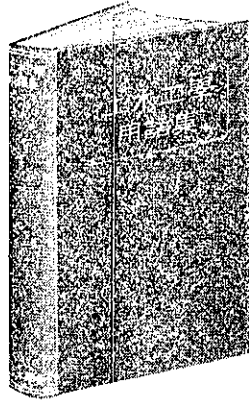
索引約 200 頁

(英獨佛各別)

### 装 幀

總シロース上製

菊半裁判



實物見本(縮寫)

### 定 價

2 円 50 錢

會員に限り

### 特 價

2 円 25 錢

寄 留 小包料	}	東京市内	12 錢
		内地	15 錢
		臺灣・樺太 朝鮮・滿洲	10 錢

### 部 門 別

- |          |            |            |
|----------|------------|------------|
| 1. 応用力学  | 2. 水理      | 3. 測量      |
| 4. 河川    | 5. 砂防      | 6. 發電水力    |
| 7. 上水道   | 8. 下水道     | 9. 港湾      |
| 10. 道路   | 11. 橋梁及構造物 | 12. 軌道     |
| 13. 鉄道   | 14. 都市計畫   | 15. 材料及施工法 |
| 16. 土木機械 |            |            |

本書は從來の諸種の辭典は勿論他学科の用語集等と全く趣を異にし日、英、獨、佛の4箇國語を網羅し各語に就て簡明なる定義解釋を附し時代の要求に全く適應せしめたものであります。

土木關係者は勿論一般好學の士は必ず座右に供へられんことを希望致します。

會員に限り特價を以て頒布致します、御希望の方は本會宛御申込下さい。

# 會 告

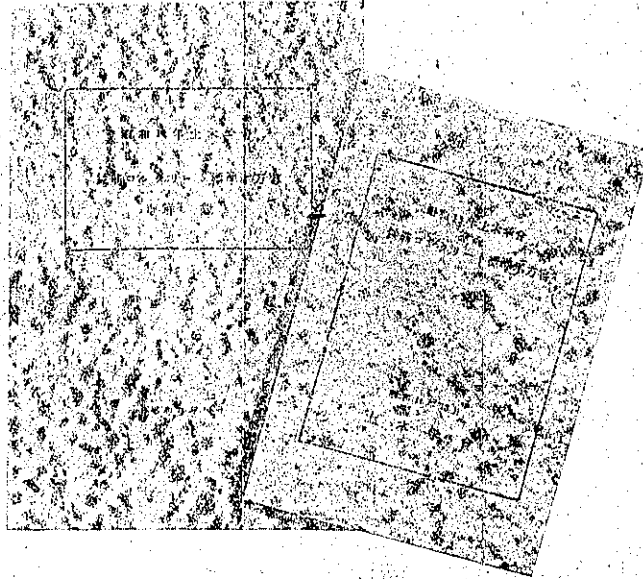
## 昭和 11 年 土木學會 鉄筋コンクリート標準示方書及解説

示方書

四六版

解説

菊版



定 價

示方書と解説

2 冊にて

1 円

送 料

會員に限り

學會負擔

昭和 6 年に制定致しました土木學會鉄筋 コンクリート 標準示方書は既に 5 ケ年を経過し、その内容に於て改訂を要する點が多いことを認め本會コンクリート調査委員會に於ては之が調査研究中であります。差當り術語を工學會規定の用語に、骨材試験用の篩を日本標準規格に改め、参考篇を挿入して昭和 11 年版を發刊致しました。

今回は特に携帯に便利なる様製本し、定價も示方書と解説 2 冊にて 1 円の特價にて頒布することに致しましたから御希望の方は本會宛御申込を願ひます。

土 木 学 會

## 會 告

例年の通り發明獎勵費交付（交付規則大正 6 年 10 月 13 日）  
農商務省令第 28 號）に關し特許局長官よ  
り下記の通り照會がありましたから、御希望の向は同局に付詳細御問合せ  
下さい。

記

昭和 12 年 3 月 31 日

特 許 局 長 官

社 團 法 人 土 木 学 會 御 中

昭和 12 年度發明獎勵費交付に關する件

優秀なる發明を誘掖獎勵する爲從來發明獎勵費を交付し來候處昭和 12 年度に於ても豫  
算の範圍内に於て發明の研究費、見本製作費又は試験費の補助可相成筈に付貴會關係者  
に此の旨可然周知方御取計相煩度此段得貴意候也

追而右申請は地方長官を經由の上 5 月末日迄に差出す様致度此段申添候

附 記 發明獎勵費交付規則は本誌第 20 卷第 4 號參照

### 第 2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集頒布

第 2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集が發行されました、御希望の方は土  
木學會又は下記宛御申込み下さい、土木學會々員に限り 60 錢（外に送料 4 錢）にて  
頒布致します。（論文目次、土木學會誌第 23 卷第 2 號參照）

發行所 東京市麴町區丸ノ内 3 / 4 日本動力協會内

世界動力會議大堰堤國際委員會

日本國內委員會

# 會 告

## 御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		會 員	
荒川 參太郎君	稲 葉 彌 吉君	木 村 賢 一 郎君	小 林 源 次君
藤 増 能君	山 本 保 之 助君		
造		員	
和 泉 高 巖君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 興 吉君	徐 三 善君	萩 原 官 六君
栗 田 忠 治君	小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君
會 我 進君	福 島 保君	船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君
本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君	中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君
吉 田 二 億君	劉 作 禮君	濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君
水 原 巒 文君	宮 田 壁君	横 田 清 治君	石 原 三 郎君
齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君		

## 時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の狀況、金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織、事業に関するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

## 會 告

### 図書室及娯楽室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娯楽室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、  
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

### 図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

### 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 費費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(直径 14)

## 會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

## 會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滯納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

## 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

### 會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 信	稻 葉 通 彦	大 岡 禮 三	大 川 一 郎
	太 田 尾 廣 治	岡 崎 三 吉	菊 池 明	野 坂 孝 忠
	廣 瀬 孝 六 郎	安 宅 勝		



# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	3.00
11	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	*	*	*	*	*	—	—	*	—	—	*	*	1.00
21	—	—	—	*	*	—	—	*	—	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	*	*	—	—	—	*	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 号 (創立 20 周年記念号)													1.50
第 21 巻第 7 号 (會誌索引付)													1.30
災害調査報告書(1,2,3)													13.00
応用力学聯合大會講演集													1.00
鉄筋コンクリート標準示方書													1.00
同上													1.00
土木工学論文抄録													3.50
土木学会誌索引(第 1 巻第 1 号—第 20 巻第 12 号)													0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告													1.80
土木工学用語集													2.50 (送料別)

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を郵便で東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

## 廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
		色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XXIII, NO. 5, MAY. 1937.

---

## CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society. ....	35
Address,	
On the Civil Engineering in Japan.	
<i>By Sôzi Ôkawado, Dr. Eng., President.</i> .....	449
Papers.	
On Mechanical Properties of Paving Concrete.	
<i>By Masuki Fuzii, Dr. Eng., Member.</i> .....	453
Compression Tests of Mesnager Hinges.	
<i>By Minoru Utiyama, C. E., Member.</i> .....	471
Discussions. ....	489
Notes on Matters of Interest. ....	501
Current Notes. ....	529
Abstracts of Selected Articles. ....	537
Our Members Say. ....	567
Patent News. ....	569
New Publications. ....	571

---

## OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.